

# リハビリとボツリヌス療法で 脳卒中の後遺症を改善



柳川リハビリテーション病院  
リハビリテーション科 部長  
廣松 聖夫

日本リハビリテーション医学会認定指導医・  
リハビリテーション科専門医  
日本リウマチ学会認定リウマチ専門医  
日本整形外科学会認定整形外科専門医  
義肢装具等適合判定医師  
厚生労働省認定麻酔科標榜医

《診療日》  
水曜日 午前(9:00~13:00)  
金曜日 午前(9:00~13:00)

厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」によると、日本人の死亡原因として、がん、心疾患、肺炎に次いで脳卒中は第4位ですが、近年の目覚ましい医療の進歩により死亡者は減少しています。反面さまざまな障害が後遺症となっており、介護が必要となることも多く、脳卒中は介護が必要となる原因の第1位に挙げられています。

柳川リハビリテーション病院ではリハビリテーション科外来で脳卒中の後遺症として頻繁に現れる上下肢痙縮(けいしゆく)手足の筋肉のつばり)に対して、ボツリヌス毒素製剤を筋肉に注射するボツリヌス療法を行っています。これまで9割の方に改善がみられ、リハビリと組み合わせると継続的な治療効果が期待されています。

痙縮は、わずかな刺激で筋肉に力が入り、手足の筋肉がつばり、手指が握ったまま開こうとしても開きにくい、肘が曲が、足先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどの症状が現れます。この筋肉の緊張を和らげるのがボツリヌス療法(ボトックス療法)です。

## ボツリヌス療法とは?

ボツリヌス菌が作り出すたんぱく質を成分とする薬を注射することで、筋肉を

緊張させている神経の働きを抑制する治療法。当院が「9割以上の有効性の成績を上げているのは、治療にエコーを使ってターゲットの筋肉に確実に注射しているからで、視診・触診だけでは正確さを期することが難しいと言われている。ボツリヌス療法は保険適用で受けることができます。

## リハビリテーションとの併用で機能回復

手や脚の筋肉が無意識に緊張し過ぎる痙縮は、リハビリテーションの障害となるため、力が入ってしまう筋肉に直接、注射をリハビリテーションを行いやすくなります。個人差はありますが、この療法の効果は3~4か月間持続し、その後は元の状態に戻るため、効果が持続している間にリハビリテーションを行う必要があり、当院では外来において廣松聖夫リハビリテーション科部長の診療のもとで、治療計

画を立てます。リハビリテーションと組み合わせることで継続的に行うことで効果が期待されます。

柳川リハビリテーション病院では、脳血管リハビリテーションにおいて、急性期病院で脳梗塞、脳出血、くも膜下出血といった脳血管疾患の治療を受け、片麻痺、高次脳機能障害、言語・嚥下障害など、身体機能に障害を生じている患者さまをできるだけ早期に受け入れ、積極的かつ多岐にわたる集中的な回復期リハビリテーションを展開しています。

リハビリテーション科専門医と各主治医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護福祉士、医療ソーシャルワーカー等が連携し、随時評価を行いながら効果的な診療を行っているのが特徴。主に疾患によって起こった障害に対して、個々の能力を最大限に活かせるような対策を考え、個々の病態・傷害をうまく乗り越えることを中心に診療を行っています。